京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月金拾五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 十二月十九日
發行兼編輯印刷人 山下英郎
京城西署西小門通
發行所 京城新報社
電話六六三

對星權茶話

▲予は夫婦の運動なり、参與官は日韓兩國政府の運動なり。

▲時勢遲れの儒學士、吾人に敬へて曰く太皇帝陛下にして日本に漫遊あらせらるゝに至れば日本は韓の獨立を默許すべきか、彼は獨立を商品の如くに心得太皇帝陛下を販賣人の如くに考へ、彼自ら獨立の仲買料を獲んと思へるなり。

▲今曰く奇策天外より落つ、先づ試みに獨立門に上りて韓城の風景を目撃し、而後一進會長に面會して獨立の講議を聞けよ、太皇帝陛下の日本御漫遊は三年前の夢物語として消へ失せしよ。

▲昔の野田卯太郎、今の農商工部大臣宋秉畯氏をして歐米漫遊の程に上らしめば彼は保護論より臣化して局外中心論に歸着すべし

▲沁陽宙街は一回にして又蝶蝶式なり、對韓政略は此式外に妙味無からん。

▲朝鮮の犬の吠え方は外交的也。

▲尤も正しき韓妻は朝鮮婦人を女房とすることにして尤も善き韓妻は朝鮮人に嫁入するものを謂ふ。

露國建物返還要求

都督府にては昨年當大連に起れる元露國寺院の返還問題を始め引渡しを求むべき理由の正しきに對しては夫々解決を與へ尚未決の問題に對しては證據材料の蒐集と共に解決する方針にて處分し居れるが今回更らに露清銀行(元露清銀行)遼陽幾家林子(元露清銀行員の私有)奉天公所(元露清銀行露換合同にて二十五年間借受けたる所)の建築物返還の趣を露國領事に持込みたる說あり而して第一、現今の橫濱正金銀行の家屋は元露清銀行にて去二十八年三月十五日露軍退却の時擴張れて其の殘幾家屋をば橫濱正金銀行が陸軍の材料を仰ぎて改修したるものなれば同件は果して之れを返還すべき理由ありや否やは疑問に屬せり第二、遼陽幾家林子の建築物は證據材料の蒐集中なるを以て未詳なり第三、奉天公所は是亦元露清銀行の建物にして渾河對陣中露國が軍政署に使用したるものを日本軍の奉天占領後小笠原某なるもの借受け奉天館と稱し旅館と爲したるも負債の爲め債權者より差押へられ其の後現今の滿鐵公所に新築されしものなれば之に於て返還を要求するは少しく無理なる嫌ある者の如し第四、熊岳城溫泉地は元露人及換人の合同にて支那人より二萬坪を二十五年間借受け戰爭中借地料の半額丈けを入れし由にて占領後我が軍隊の療養地となり現今も亦守備隊の溫泉場となり居るものなりと要するに滿鐵會社の方針は返還要求の理由正しく當然引渡すべき證據の存在し居るものあるに於ては之れが要求に應ずることに吝ならざる方針にて夫々手續を盡して懇切に解決を與ふる意嚮なるが如し

營口本邦商と金本位

營口の振商會にては昨年大會を開らきて金本位の取引に改むる事の決議を爲し當時帝國領事も敢て差支なかるべしとのことに直ちに實行の運びなりしも當時の狀態は彼の豪商東盛和破綻事件の爲め經濟界擾亂を呈し居たる際なりしを以て時機の到るを待ちて實行する事となり居たるに同事件も或る程度迄進行し歸着する所も稍々認め得らるゝ迄に達したると昨今の如く金銀價の差甚しきに於ては到底物價の平準を保ち難きを以て此の際振商會の決議を實行するより外なしとの理由にて去一日より金本位に準據する旨の看板を各店頭に掲ぐるに至りたるに帝國領事は數日前突然振商會の幹事等を召喚なし金本位取引は却つて彼我貿易に不利を來たすべき懸念あるにより斷然撤回して從來の取引に復すべしとの命令的論達を爲したるに對し其の夜幹事會を開らき種々協議を爲したる結果金本位に準據すと云ふは全然金貨金券のみに限り支那通貨に對し取引せずと云ふの意にあらず取引干係は從來と寸毫も異なる所なし唯標準を金本位に改めたる迄に過ぎず又金銀價の高低する每に本位を變更すると云ふが如き不定見は斷じてせざる所なれば其の意を諒せられたしとの旨を回答することゝなりし由なるが或る一說によれば始めには帝國領事は金本位に改めたりとて敢て經濟上に影響を及ぼす等の問題にもあらざるべければ何等差支なかるべしとの旨の承認を與へながら今回突然撤回を命せんとするに至りしは其の間の消息を疑はざるべからず金本位改定の結果は爲替送金等は從來橫濱正金銀行營口支店の手を經由せず郵便局に依賴することゝなるべきを以て眞意は或は此の邊に含まれ居るにあらずやとの風評頻りなり

新麻酔劑の發見

近着米國新聞を見るに夫のロックフエラー醫學研究院員たるサミユル ジエー メルツエル博士といへるは二ヶ年に亘る研鑽の末遂に此程に至り極めて有利有効なる麻酔劑を發見したるよし其の効能は第一使用して安全なるのみならず從來のものに比して頗る廉價簡單なるにあり從來の麻酔劑たるイーザー、クロロフォームの如きは心臓鼓動の亢進を惹起し其の反動として往々危險の伴ふことなきに非ざりしも新藥は更に斯くの如き缺點を有せざるのみならず倘は夫の牙關緊着症に應用し其効果著しきものありといふ然らば其の新藥とは果して如何なるものかといふに敢て耳新らしきものには非ず二十プロセントの瀉利鹽溶液に外ならざるなり博士の第一着に試みたるは一頭の犬にして二十プロセントの瀉利鹽を注射するや數分を經て犬は漸次遲緩となり呼吸亦次第に緩慢微薄となり遂に呼吸休止と覺しき狀態に達せしかば即ち新に空氣の注入を計りしに頓て呼吸を吹返すに至りたるが第二回目の試驗には些か瀉利鹽の稀薄なるものを用ひしに犬は一度知覺を失ひたる後自ら復活し來り些の苦痛をも感せざりしことゝ並に體溫の亢進なく心臓の鼓動平調を失はざりしこと等を確め得たるを以て次で他の動物を試驗したるが其の中の一たる猿は生平性質極めて兇暴なりしに少許の注射を行ふや溫和となり次いで麻酔せり是れ本劑の狂人に用ひて効あることを示すものなりとて茲に初めて人間に對し應用することゝなり幾名の狂人に試みたるに麻酔の程度まで達せしむことなく彼等を溫柔ならしむるを得たり次で行はれたるは脚骨の正に腐敗せんとする患者にして局部の稍や上方なる神經本系に二十パーセントの本劑を注入し骨を洗ひたるに些の苦痛を感ずることなく又別の患者に對しては背部に本劑を注射したる後脚部を切斷したるが是れ亦苦痛を與ふることなく且つ心臓鼓動は平調に體溫亦變る所なかりしといひ又ハーレム病院に收容せられたる一患者は牙關緊着症を患ひて何時落命するやも計り難き狀態にありしが本劑を注入するや須臾にして口開け後四日ならずして退院したり思ふに博士が曾て其成功の確實なるを發表するの日遠きに非ざる可しと云ひしとあり

●無煙炭と使用法●●●●●

無煙炭と云へば一般粉炭を意味するものなるが平壤鑛業所にては過日來採掘方法を改良したる爲め十に付き約三分の塊炭を得るに至れり塊炭は粉炭より其効用に於て遙かに勝り凡ての點に於て利益あり而も從來之が使用法に就ては一般之を辨へざる爲め比較的需用者の少かりしも頃日大に增加し好評を得つゝあり平壤在留の西洋人の如きは初めより之が使用方法を辨へ居るより悉く同鑛業所へ一年間使用の特約を結び居る趣なるが之が使用量は二百噸に上ると云ふ猶之が使用方法に就ては未だ辨へざる向もあれば試に說明せんに最初ストーブ內に少量の普通石炭若くは木炭を燃し其上に通常ストーブ內約八分通りの邊迄塊炭若くは粉炭を入れ努めて之が位置を動かさず自然の燃上に委するを好しとす萬一燃上せざる時は下部の空所より空氣を變換せしむべし如斯して一旦燃上したるものは少くも八九時間は一定の暖氣を保つべく之が効能に就ては經濟上普通石炭に比し大に利益あるのみならず多量の灰分を排出せず只欠點とも稱すべきは燃へ付の惡しき事なるもされど一旦燃上りたる上は其方法さへ途を失はざれば度々手を煩はすを要せず長時間一定の暖氣を得て頗る便利なりと云ふ

ステッセル裁判(八)

有史以來の大審問▲露國陸軍の內幕▲日露戰爭最後の悲劇▲旅順要塞開城事件

檢事はクロパトキン將軍に問うて曰く、金州陣地を强固に防禦せんが爲にフォーク將軍は有ゆる方法を盡せしやと。此の質問に對して判士長は證人をして結論せしむ可からずと言ひしも、フォーク將軍の辯護人は證人の答辯を許可することを申請したり。即ちクロパトキン答へて曰く「本證人は、●●●●●最も頑强に對抗すべしとのステッセルの命令が絕對的のものなりしことゝ、及びフォーク將軍の處理方法が最も重大なるものなりしことを認む。本證人はフォーク將軍が自己の權內に在りし總ての防禦方法を盡したりとは認むる能はず。起訴狀の中には第五狙擊聯隊の掩設に動員せられたる二大隊さへフォーク將軍の爲に抑止せられたることを掲げあり戰闘に關しては本證人はステッセル將軍より頗る激烈なりしとの上申を受領したり。之が爲にステッセル將軍はフォークナディン兩將の功に酬ゆるにゲオルキィ三等勳章を以てせんことを請願したり。此の上申に於て本證人はステッセルに何等疚ましき行跡若くは利己的野心あるを認めざりき。●●●●即ち本證人の考ふる所を以てすれば上申の中には今日此の點に於て●●●●●彼れを罪定するの動機となるらしき點一も無し」。此時フヲーク中將の辯護人は證人に向ひ「貴下は何所より起訴文中の條項を知りしや」と詰問したるに、クロパトキンは難なく答へて「吾人は今朝の新聞に於て起訴狀の印刷せられあるを見たり」と云へり。次にフォーク中將の辯護人ドムブロフスキィは、金州及び南山に於ける軍隊配備に關する或る問題は無用なりとの判士長の言に對し强硬なる反對を試みて、時の狀況を說明し且フォーク中將の名譽恢復に資すべき問題を撤回するは是れ辯護を撤回するに等しと述べたり。茲に於てクロパトキン將軍は軍隊配備に關する問題に答へて曰く「本證人はステッセルの上申の外戰闘に干する精密の上申を有せざりき。旅順よりの上申を得るは時の狀況上甚だ困難にして、手許まで達せしは僅かに其の一部分にして他は皆途中に消滅したり。第五聯隊の損失が五百人より八百人に及びしを見れば重に此の聯隊が奮闘したるを知るべく、他の部隊は何を爲せしか本證人は之を知らず。又他の聯隊の損失に就ては何等の通牒なかりき。此の損失の有無は以て戰闘に於ける各聯隊の行動の程度を定むるに足るべし」。檢事「●●●●如何にして貴下は金州の堡壘が南方より築かれしことを知りしや」。クロパトキン曰く「本證人は此の事を唯だスミルノフ將軍の說明に依りて知り得たるのみ。若し本證人が此の事を早く聞きしならんには直に反對せしなるべし」。クロパトキン將軍は尙續けて曰く「旅順城壁の築造に干して本證人は次の事を認めざるを得ず。即ち千八百九十九年を以て之が築造を開始したりしも同年には單に一時的の城壁に着手したるのみ千九百年には淸國の叛亂ありて之が爲に一年は空しく經過したり。斯て日露戰爭迄は三年を餘したり。其のうちに堪能なる陸軍技師ウエリチコ氏旅順に派遣せられたれば地方長官と協力の上彼れに堡壘砲臺、城壁の地點を設定することを委ねたり。本證人は金州陣地の堡壘城壁に關する問題を解決せんが爲に地方より彼得堡に遣はされたるを聞かず。又此の陣地の城壁築造案も本證人は戰爭當時に至る迄之を見しこと無かりき……」。

文苑

佳羅丹之幾

玉井南軒

○寒樹

山松の松風さゝふ風立ちて冬の寒さを人に告ぐらむ

落葉せし山の木立に霜降ればいとゞ嵐のさねまさる也

花もなく葉もなき冬の木立社人の身に染む寒さならまし

冴ゆ返る霜夜の月に影澄みて凍ゆ計の冬木立かな

鳥さへも翼をさめて冬枯し遠き枝には飛ばむともせず

○卅七年の大三十日に霰降りければ

み軍のなかばに歲の暮れ行けば玉ともまがふ霰降るなり

仇方にむくゆる丸はよも盡きじ霰降りつゝ歲ぞ暮行く

○偶感

紅葉せぬ山しなければ世の中の人の心の色ぞ多かる

○陣中雜感

鉾をふせ旗をもまきてみ軍に凱をあげて仇は降れり

さは言へど仇もさるもの今日までもふせぎこらへし心雄々しも

小說

絃のみだれ(五十三)

永井櫻園

下女のお松は其不人情を心に怒りながら色にも出さず、暫く思案した後、故と微笑むで「眞箇大勢の人を相手の稼業ですから、一々世話して居た日には果しがありませんはね。ですけれど、山田さんは那の通り靜な方でもありますし、私などは初中終宅に遣る手紙や、お友達の家へ遣る手紙も書て貰ひましたし、繪も書て貰つて宅へ送つて遣りましたし、隨分お世話になつて居りますから、治るものなら治して上げたいと思ひますで、誠に失禮ですけれど姑にお給金の頂いたのが四圓ばかり殘つて居りますから、この金でどうぞお藥と氷を買つて今暫く養生さして上げて下さいまし、私が一生のお願ひでございます。」と、懷中から虎の兒のやうにして蓄た給金の殘金を、紙幣と銀貨と取混せて四圓取出して夫婦の前に列べた。

夫婦はお松が意外の義氣に、思はず互に顏目合せたが豈夫に怒りもならず、心中には有繋に恥ぢながら「そりやア、お前が世話になつた恩返しに親切を盡さうと云ふのなら、無理に止立は爲ないけれど、お醫者もむつかしいと言はれるほどの病人だもの、迚も助りッこは有りや爲ないよ、若もあのまゝ亡くなりでもして御覽、折角お前が無けなしのお金子を使つたのも、本人は知らずにアうぢや無いか、それでもお前は管はないと云ふのかね。」と、舍せと云はぬばかりに云ふ。お松はおふでの辭を遮るやうに「なあに、これッぱかりのお金子位、何なつても宜うございますよ、假令生命がありくッてお亡くなりなさるやうな事がありましても、私は世話になつた御恩を返したと思やア氣持が宜うございますわ、どうぞ僅かばかりですけれど、この金子のある間藥や氷を買て上て下さいまし。」「それぢやまあ私等は何とも言はないが、お前が勝手に看病して上げるが宜からう」と、不服らしい顏をする、お松は何か決心した事でもあるかのやう、顏色なども變せず「では、どうぞ相濟みませんけれど、此金子のある間藥や氷を買に遣つて下さいまし、私のお願でございます。」「では早く往つて買つて來て上げるが可い、山田さんは幸福者だよ、お前のやうな親切な女が附てるから。なんなら序に今月分の宿料もお前が拂つて上て呉れると可いね」と、何か怪しい關係でもあるかのやうな振にいふ、お松は口惜さが胸一ぱいになつて、寧そ夫婦の無情を思ふ存分言罵つて、暇を取らうかとまで思ひ詰めたが、見れば大病人に藥一服、氷一塊をも與へぬといふ非道な夫婦に任せて置けば、助かるべき山田の病氣も遂には全快しないで、不歸の人となるかも知れぬと腹立たしさをジッと堪ねて「お金子さへあれば拂つて上げますけれど、何と云はれても無いから致方がありませんわ、では一寸藥を買に遣つて下さいまし」と、件の金子を持つて出掛けて往つたで、爲吉は女房に向ひ「お松奴奈何かしたんだらうか怪しいね」と、苦笑して云へば「豈夫、いくら山田さんだつて那麼女を對手にするもんですか。」

那麼女、寔にお松は髮太つた醜婦であるが、其精神は花の如く美しい。

京城新報

暴徒の經濟上に及ぼす影響

（本篇は先生が經濟協會に於て演述せられたる大意にして文責は記者にあり） 菊地謙讓

暴徒は既に諸君の知らるゝ所なる如く此の重大なる問題に對し未だ各種の機關に於て調査して之を報告せしものあるを聞かず然れども私は重大なる問題と信ずるが故に爰に項目を分つて述ぶる所あるべし

抑て暴徒なるものは彼の二十八年に於ける東學黨二十九年に於ける義兵三十三年に於ける活貧黨三十八年の義兵及び最近の暴徒なるが、何れも同じく性質に於ては多少異なる所あるも日本に對する惡感情を有するに於て一致し就中最近の暴徒は最も悲慘を極め最も甚しき禍害を與へたり

第一 暴徒が帝國殖民地に及ぼしたる影響

三十七八年戰役後我帝國の臣民は戒場に上り三倍乃至七倍の發展をなし韓半島は到る處に日本人を見ざるなく十年後に至れば優大なる發展を爲す事を期せられたりし一度暴徒の起りてより忠清道北部に於ける忠州木川沃川及び安城地方の殖民は悉く破壞せられたり然れども私は未だこれが發表せられたるを聞かず京畿東北部一帶地方も危險に陷り黃海の北部及び平安の南方に於ても殖民地の多くは破壞せられ日本臣民の礦山、林木、農事等各種の事業を營める殖民地は悉く破壞せられたり阻害せられたりしてこれを調査せば損害の狀況慘憺なるものあらん諸君の思ひ半に過るものあるべきことを信ず

第二 暴徒韓國產業に及ぼす影響

大體にいへば暴徒は昨年八月下旬より起り九、十、十一の三ケ月最も猖獗を極めたり此の三ケ月は韓國民の農事經營の業忙の時にして此の農事經營期間を破壞せられしが故に韓國の官民は收穫も充分ならざるが上に漢江、錦江、洛東江の往來は悉く阻害せられ運輸交通殆んど阻止せられ從つて韓國民の產業上の損害また尠少ならざるべし

第三 韓國及び帝國の財政に及ぼす影響

帝國政府は韓國の守備の爲めに一師團を韓國に駐屯せしめ昨年暴徒起りてより更に混成旅團を編成し各地に分派せられしが暴徒が意外に長びく爲めに未だ撤回せらるゝに至らざるのみならず憲兵の多數を派遣せざるを得ざる等に就ても一々調査せば帝國國庫の負擔に及ぼせる各種の事實は何ほど多かるべし又韓國の財政に於ては其の收入の重なる所の租稅は暴徒の爲め徵收の期を破壞せられしが故に收入減少し財政に重大なる困難を起すに至るべし今や租稅は一種の冒險事業にして徵收せられざるものあるが如く當局者の苦心思ふべし以上は大なる項目に就ていへるのみにして其の他各種に亘り仔細に調査すれば經濟上に及ぼす影響は多大なるべく斯の如く重大なる問題なるが故に當協會が組織的に調査を爲し暴徒鎮壓の方法に貢獻する處あれば其各般の政策及事業に裨益する處少からざるべしと思ふ

東京電報

▲林外相の訓電

滿洲に關する未了諸問題につき奉天に於て談判を開始すべき旨林外務大臣より加藤領事へ宛て訓電を發す（廿日午後發）

▲間島問題の質問

代議士神藤才一より間島問題に關する質問を提出せり（廿一日發）

▲暴徒討伐隊行賞

韓國暴徒鎮壓の軍隊に對しては叙勳條例を適用することゝなり又從軍記章も下附さるべく奏請中なり（廿一日發）

各地電報

●北韓の暴徒討伐

暴徒討伐のため安邊郡永豐社に向ひたる武田特務曹長及石崎巡查部長の一行は本月十五日未明「ゲンテイ」附近に於て八十餘の賊と衝突し其五名を殪し銃器九其他武器物品若干を鹵獲す我に損害なし（二十日元山發）

●咸興方面の暴徒

昨廿一日午後一時二十分着咸興分隊長よりの來電によれば賊徒約三十名昨夜南山「ポウジシャ」に來襲の報ありしかば直に憲兵四名出發せり（廿日安邊發）

雜報

太皇帝の日本行（策士の劃策）

韓國太皇帝が日本に渡航し我皇室を訪問して意を洩らされたりとの事は本紙の報道したるところに依れば太皇自身日本行に就て多少意を持せらるゝことは事實にて太皇自身は全く政權を獲得せんと企つる或策士の劃策に出るものなりと云

●李載完子の謁見

完興君李載完、永宣君李俊鎔氏は本月十九日德壽宮に參內し太皇帝に謁見し御機嫌を伺ひ夫より昌德宮に參內し皇帝に謁見したる後李俊鎔氏は長谷川大將を官邸に訪問されたり

●參與官會議

本日午後十時より統監官邸に於て例の如く在京參與官參集し會議を開きたり

●大臣會議

本日午後二時より各大臣は統監官邸に會集し政務に關する協議をなせり

●趙法相掛冠の說

法部大臣趙重應氏は過日辭表を呈出せりとの說あるが其眞否は後報を俟つて揭ぐべし

●李總理の引籠

總理大臣李完用氏は病氣と稱し引籠中なるが當分出務せざるべしと多分政治病なるべしと云ふものあり

●國民有山林測量

農商工部にては各道各郡に在る山林中國有と民有とに論なく測量せしむることゝし人民の私有に屬する山林は六ケ月以內に測量製圖して所有權の認許を請けしめ若し期限を過ぐるも認許を受けざる場合は民有と雖も國有山林に編入することになすとの案を內閣會議に提出したりと而して其測量製圖費は山林所有者の負擔たるべしと

市原氏洋行說

第一銀行取締役市原盛宏氏が兩三日中に東上せらるゝことは既報の如くなるが氏は總會結了後都合によりては某氏と共に外遊せらるるなるべしとのこと東京よりの近信中に見ゆ、因に第一銀行四十年度下半季の營業成績は暴徒其他の事故多かりしに拘はらず至て良好なりしと云ふ

火災保險料率に就て

京仁其他韓國の各地に於て營業を爲すところの各火災保險業者は皆代理店若しくは出張所なるを以て今回の保險料引揚に付ては只本社の命を聞くに外ならざる次第なるがさりとて當地の經濟金融に影響する大問題を其儘に打捨て置くの不可なるを認め火災保險の代理店を營むところの某銀行にては目下保險料引下につき種々配慮中なりと云

經ト協會一月例會

韓國經濟協會の一月例會は一昨日午後六時より日本人俱樂部に於て開催せられたり出席者は官民數十の會員諸氏にして例に依りて極めて盛會なりし當夜の講演者中會員井上雅二氏は病氣の爲め缺席せられしも菊地謙讓氏は「暴徒の經濟上に及ぼしたる影響に就て」なる題下に有益なる講演を遂げられたり其筆記は載せて別欄にあり尚當夜菊地氏の提案と市原幹事長の意見に基き經濟協會にては暴徒の經濟上に及ぼしたる影響に就て詳細の調査を遂ぐることを議決し調査委員長として市原博士を擧げ委員として會員中の秋吉頭原の京仁商業會議所會頭京仁六新聞の代表者及清水服部の兩協會幹事を擧げたり而して各委員は近日第一委員會を開くべしと云ふ

●コールブランの回答

電車賃値上事件に關し漢城府民會長尹孝定氏より韓美電氣會社總務コールブラン氏に宛反對決議の理由を送致したるに對しコ氏より電車賃金一部分增加に對しては內部大臣の公文を米國總領事を經て弊社に到達したれば目下注意中にありとの旨を回答したりといふ

●大韓醫院の痘苗製造

大韓醫院に於ては昨年より日本痘苗製造所と同一の設備を以て痘苗を製造し既に使用つゝあるが其の成績極めて良好にして內地製に比し遜色なきも此の事未だ一般に周知されざるもの〻如く注文者多からざる趣なるが同病院に於ては日本製と同樣五人分五錢官公署よりの要求は其の半額を以て頒與する由尚地方よりは郵便爲替を以て代金を送付せば直ちに小包郵便を以て發送すべしと云ふ

●仁川會議所總會延期

本日開會すべき筈なりし仁川商業會議所總會は別項の如く穀物協會整理委員會開會の爲め議員中に差支へを生じたれば已を得ず明日開會することゝなれり

●積立金整理委員會

仁川輸出商組合及び此程解散（表面は業務休止）したる穀物協會は本日午後一時より積立金處分方法に就き同會整理委員會を開く筈なり

●李允用氏歸朝期

皇太子に隨從し日本に滯在中の宮內府大臣李允用氏は來る二十八日頃歸韓すべき豫定なりと

●千葉支部長の視察

仁川陸軍運輸部支部長千葉貞三郎氏は釜山及び馬山浦の港灣視察の爲め昨日午前の汽車にて釜山に向ひたるが其旅程は約一週間なりと

●愛國婦人會役員の訪問

愛國婦人會韓國本部の役員國分、津輕、村上、佐々木の各夫人は一昨二十日小宮宮內次官夫人を官邸に訪問し同會韓國の近況を述べ同夫人より今後尙一層の盡力を以て會務の盛況を期せられ度き旨を述べたり

●黑田太久馬氏

統監府佛語通譯囑託黑田太久馬氏は都合により今回囑託を解かれたりと云ふ

●二十日參內者

昌德宮計五十九人內婦人三人重なるは副統監子爵曾禰荒助、法部大臣趙重應、軍部大臣李秉武、宮內大臣署理閔丙奭、承候官李載克、承候官尹德榮、同尹澤榮、侍從院副卿李會九、陪從武官張然昌、同洪完植、秘書官佐竹義準、通譯官前間恭作、侍從金永甲、同李圭天、小宮宮內府次官夫人德壽宮計百○七人內婦人四十一人重なるは義親王妃殿下學部大臣李載崐、承寧府總管趙民熙、同副總管朴齊斌同侍從長金春熙等なり

暴徒東大門外に現る

又もや暴徒が京城の東大門外に現はれたりとて昨日午前十一時頃某隊の將校二名兵卒若干名派遣せられしが例によつて暴徒の踪跡は不明なりしとのことなり

佐久間農場賊襲後報

一月十日午後十一時頃約三十名の賊徒光州郡馬池面（光州邑東方約一里半）盤村佐久間農場を襲擊す同農場には支配人として新潟縣人齋藤一（三十九）妻とき（三十）長女きん（八つ）長男貫（五つ）雇人田中啓治（二十六）の五人同棲し農業に從事せしに突然襲擊を受け防禦の力なく齋藤一は數ケ所の銃創を受け田中啓治は僅に身を以て免れたるも妻子三名は遂に彼等のために慘殺せられたるなり賊徒は斯る慘害を逞ふしたる後同農場に放火したるを以て後に至り灰燼中より發見せられたる妻子の死體は黑焦となり慘狀目も當てられぬ有樣なりしと又右の賊徒は放火後西方に向つて逃走せる形跡あるを以て出張の巡查之を追跡し同夜方下洞面院村里に於て約六十の賊徒に出會し直ちに射擊を加へしに彼等は夜陰に乘じ其の跡を晦ましたりと云ふ

榮山浦暴徒の狀況

從來當地方は僅かに火賊の橫行せるに止まり比較的靜穩の狀態なりしが近時各道に暴徒の跳梁せるより從つて之に附和雷同し殊に韓國の前途を憂慮する頑迷なる老儒生の徒も翟火賊の一派と氣脈を通じ爰に多數の兇徒を嘯集して日本人放逐策を講ずるに至れり而して舊臘八日法聖浦襲擊以來勢ひ頻に加はり或は郡衙を襲ひ官吏を脅かし又は村市を騷がすこと一再にして止まらず日本人及び一進會員を目して國賊と唱へ橫恣暴戾日に烈しきより自然良民も排日熱に驅られ又は貧困者は納稅を免かるゝ等の利益より陰に之が氣勢を助長するの傾向あるのみならず忠清南道及び全羅北道方面へ滑走せし暴徒も本道內の兵備薄弱なるを看取し漸次南下加擔するの趨向を呈するに至れり次に之が巨魁は奇京老（六十年位）李道士、金泰元金律等なるが彼等は常に二三十名の一小隊を組織し晝間は山谷に潛伏し居れりと又彼等は一定の根據なきも要するに咸平、羅州光州、長城、靈光等に集屯せるもの〻如く其の總數は約七八百名なりと

●泉谷里の賊

一月十四日午後十時頃龍仁郡泉谷一進會員より秋溪里宋邸へ宛てたる報告に依れば十三日夜泉谷里に暴徒十四名來襲し李京化なる者を拉去せりとの報により直ちに水原署より巡查七名及宋邸一進會員數名と共に午後十時四十分出發泉谷洞に至り搜索したるも所在不明に付一泊の上翌十五日未明より引續き搜索したるも暴徒は聖路山に宿泊し本朝泉谷面龍德岩の寺院（山腹）に集合せるを探知し包圍して攻擊せんとせるに暴徒は早くも察知し逃走を始めたるを以て三方より發射せるも遂に山頂を越へて逃走せり漸く暴徒の小使と自白せる金大吉（十六）なる少年を逮捕し尙火繩銃一挺鐵銃の破損せるもの一挺を鹵獲せり

●暴徒を捕縛す

過日連山郡仁川市に於て我討伐隊の爲めに擊破されたる暴徒は其の後偵察の結果去る十五日二名を捕縛せりと

●歸順頻々

江原道洪川駐在所に匪徒一名歸順を申告し改悛の狀あるを以て歸順票を附與し洞長に引渡したり又同道金城警察署に五名忠清南道太田警察分署に一名黃海道海州警察署に二名何れも歸順を申告し監視に付したり

●關東州の塩業

關東州製鹽の有望にして異日都督府の一大財源と爲るべきことは夙に世人の周知する所なるが今當業者の談に據れば其の品質我食鹽は普通百分中含鹽量七十五、最上の赤穗鹽と雖も尙八十五に過ぎざるに反し關東鹽は含鹽量九十五を有し殊に價格低廉にして百斤十錢を出でざるを以て我政府に於て悉皆之を買收し內地に輸入するとも莫大の利益なるべく目下我邦に於ては專賣の結果鹽價騰貴の爲め醬油製造等諸工業に及ぼす影響多大なるを以て若し廉價の精良鹽を輸入して鹽價を低廉にし得るとせば政府に損失無くして一般の便利を增すこと大なれば假令清國政府に於て賣收を交涉成立せざるも決して食鹽の販路に就て憂ふべきが如きこと決して之れ無かるべしといふ現今世界に於て最精良鹽を產するは獨逸にして含鹽量九十七米國英國は九十六なれば我關東鹽は世界最良の鹽に匹敵し得べしとなり

●郵船の臨時廻航

郵船會社の臨時船伊勢丸は愈々明後日神戶を出帆して仁川港に向ふ由なれば當港に着するは多分三十日頃なるべしと

●馬山丸入港

昨夕入港せし馬山丸にて既報の如し軍需品四百四十一個を陸軍運輸部に揚陸したりと

●安來丸の輸送

一昨夜仁川陸軍運輸部より安來丸にて蹄鐵及蹄鐵工を江華島に輸送せりと

●慶吊會

南部警察署にては從來同僚の慶吊に際し贈り物の區々になれるより慶吊會なるものを組織し一定の方針を以て其の贈與を爲すことゝ爲せりと

●度支部官人俱樂部

度支部に於ては同部奉職官人の交際娛樂のため南大門通二丁目なる大官官舍の下なる元顧問本部分室たりし煉瓦造の家屋に修理を加へ俱樂部となし圖書室大弓場テニスコート玉突等の設備をなすと云ふ

海州地方の商況

海州に於ける商業範圍は暴徒のため多大の影響を受けつゝあるもの〻如し元來同地方の暴徒は海州、延安、平安、兎山、遂安の各方面に橫行し掠奪を擅にせしも幸に軍隊又は警察の力により鎮靜に歸しつゝあり而かも延安平山方面に在ては比較的頑强に見へ一時鎮靜の觀ありしも再び各地に出沒し今尙被害の報を耳にせり彼等は到る處豪農を强迫しつゝあり一度米穀賣却の報彼等の耳に達せんか直ちに賣上代金を掠奪せらるゝの恐あり已むを得ず空しく庫內に蓄藏せる有樣なり又米穀買出しは敢て難きに非ざるも運搬の途中押領せらるるの憂ありため買出を中止するの狀態にあり勢ひ此の如きを以て十一、十二の兩月は穀物買出の最要季節なるに拘らず其出荷を見ず農商民共に非常なる困苦に陷りつゝあり又一面韓人間の必要商品たる和金巾紡績糸等は地方經濟の必迫に連れ著しく販路を縮少せられ就中綿糸の如き例年に比し七八割の減少なりと云ふ其の他雜貨類の賣行渋からず韓國產日用品の如き在荷拂底のため價格騰貴を告げ商業殆んど杜絕の姿にして前途頗る憂ふ可きものありと云ふ

●天然痘流行と强制種痘

由來韓國は天然痘の本場とも云ふ可き地なるが本年は特に其の流行の烈しき兆あり現に京城內に於て本月一日より八日迄に此の病に罹りたるもの日本人十五名韓人一名あり尙韓人中の隱蔽せるものを取調ぶるときは或は夥しく可き多數を發見するに至る可く當局者は大に憂慮し近々日を期して一般に强制種痘を行ふ筈にて目下準備中なりと云へば一には豫防のため一には檢病のため其の効果多大なる可し

●牛疫と炭疽熱

鏡城[illegible]管內穩城邑內に恐る可き牛疫發生し客年十二月中に於て斃牛三十六頭に及び本年に入るも尙撲滅に至らず當局者は憂慮し居れり尙本月十三日大邱に於ても日本人所有の牝牛一頭炭疽熱にて斃れたりと云ふ

●勸進帳會

某名士の催により一昨夜花月樓に於て勸進帳會なるもの開かれたり而して當夜の勸進帳出演者は鐵道に關係を有する二某氏と某新報社長なりしと云ふ聞くところによれば前二氏は岡安派にして後の一氏は松永派なりとのことなるが尙當夜の客は何れも長唄に對し十分の智識を有する京仁の名士のみなりしとのことなれば其落會の程も察せらるゝ次第なり

宋秉畯の洋行に就て

余の知るところに依れば宋農相が洋行の希望を有し居ることは事實にして彼は去る三十九年中一度其目的を果さんことを企てたることあるなり而るに其矢先彼は李世植事件に關して入獄の身となり且つ出獄後は健康を損したると資の乏しきとのため遂に外遊を實行するの運びに到らざりしなり而れども彼は平常自分に語て言ふに日本が僅か四十年間に今日の如き文明國となりたるは全く人を西洋に派して西洋文明の長所を採り之を自國に應用したるためなり、韓國とても昔時は日本を敎へたる程の國柄なれば遅れながらも今より勉めて文明國となさんとせば能はざることなかるべし斯くするには唯に日本に就て學ぶのみにては足らざるを以て文明の本元なる西洋より直接に學ぶの必要あり宋が年來洋行の希望を有するは前記の理由により身躬ら西洋文明に接觸せんが爲なり只茲に一の困難なる事は宋にして京城の地を離れ居ること半歲に及ばゞ彼の政治上の同志者は皆彼を忘れ彼自身は政界に於ける勢力を全然失ふことゝなることとなり尤も彼の洋行が伊藤統監の方寸より出たるものとせば幷は別問題にして余る知るところにあらず云々（某氏談）

月旦三十行　予の見たる仁川紳士　隱法士

和田雄治君

仁川統監、統監府觀測所長和田雄治君はそも如何なる人ぞ。無論學界の人には相違ない、綿密にして研究力に富んだ頭腦は、氏をして東洋觀測界の泰斗として西洋の夫れと對峙するに至らしめた。學者は往々學問上に於て頗る大膽なる代りに社交乃至家庭に於ては頗る因循姑息な者が多い、然るに君には此風が少しも見ゑぬ、如何なる席に於ても如何なる人の前でも善く飲み且つ能く談笑し、人をして頤を解かしむる事屢々ある、其風采より見るも、儀容上最も必要な頭髮を剃つて圓頂となすが如き、俗人の到底真似る能はざるものがある、斯る風采と行動とは自然誰れいふとなく、和田統監は超凡の人たるや將た俗の俗たる者なるや判斷に苦しむと傳へらるゝに至つた、思ふに君は未だ色氣の失せぬ處を見ると全く超凡の人でないらしい、然ればといつて彼の洒落にして俗人の真似の出來ぬ處あるを見ると悟を開いた人らしくも見ゑる、遂に君の人物は不可解といふより外ない、併し君は徒らに放縱を事として居る者ではない、類ひ稀なる勤勉家で如何に病み如何に醉ふても職を空しくした事がない、且つ役所內に於ては別人の如く謹嚴で所員の中苟も職務に背る樣な所爲をなした者あれば假籍なく詰責する、而して又一面非常に懇切で慈母も尚及はすといふ樣な所がある、故に觀測所は宛然頑固なる爺を持つた平和なる一家族の如き風がある、之れを要するに君は俺迄仁川統監の資格を失はない怪人物である　妄評多謝

●御歌會始　十八日午前十時宮中鳳凰間に於て行はせられたり御製及び詠進歌並びに御前披講の歌は左の如し

御製　社頭松

ときはなるまつこそたてれゆるぎなき
くにをしつめのかみのやしろに

皇后宮御歌

さかゆくひかきのまつにみゆるかな
みくにをまもるかみのこゝろは

東宮御歌

をとこやまみさをゝかへぬわかまつの
すゑたのもしききみかよかな

東宮妃御歌

まつかせもかみのこゝろになびきつゝ
わたをならさぬみよまもるらむ

海軍大將大勳位功三級　威仁親王

こしころのまつのこすゑに
あらたまのとしのあさひをあふくかな

侍從長從一位大勳位侯爵　臣藤原朝臣實則上

いつかれしかみやうゑけんひろまへを
たはひてたてるまつのひさきは

宮內大臣議定官陸軍少將正二位勳一等伯爵　臣藤原朝臣光顯上

れはきみのよなかかれとみしめなは
かけてそいのるかみかきのまつ

讀師　樞密院副議長正二位勳一等伯爵　臣源朝臣通禧上

かくてこそいほよもちよもしけるらめ
かみのみまへのまつのむらたち

選者點者　樞密顧問官兼御歌所長從二位勳一等男爵　臣藤原朝臣正風上

かきりなくれひそふ[illegible]をそこやま
神ろもる[illegible]わかきみのため

從二位勳四等伯爵　臣源朝臣重朝上

發聲

すめかみのみやゐにたてる老松は
我大御代ともに榮ねむ

從四位伯爵　臣藤原朝臣實義上

奉行

いつの世に根さし初けむちきよりも
高くそびゆる松のむら立ち

御歌所參候從四位　臣藤原朝臣以季上

講頌

神垣にとしふる松のおのつから
かけもゆたかに見ねにけるかな

從三位勳四等子爵　臣藤原朝臣基哲上

講頌

かちいくさ祝ひて植し神垣の
松は千歳をかけて榮ねむ

正四位子爵　臣藤原朝臣爲守上

講師

風ふけはれのつから[illegible]る神樂岡
よしたの宮の松そゆかしき

正二位勳四等子爵　臣物部連有卿上

講頌

御手植の松にみゆきのあと見ねて
光いやます神の玉垣

正四位勳四等男爵　臣刑部宿禰嚴雄上

奉行

ひろ前のかゝみの影[illegible]なひくなり
たとせぬ風[illegible]松にふくらむ

御歌所參候從六位勳[illegible]　臣平朝臣信道上

講頌

としもけふあけの玉垣しめはへて
みとりもふかく見ゆる松かな

正五位[illegible]

撰歌

從五位勳六等　高島千畝上

ひろ前に立ち榮ねたる老松の
千代の影くむ御手洗の水

侯爵德大寺則女　伊楚子上

瑞垣の松ふきわたる朝風は
神の御聲のこゝちこそすれ

大日本歌道獎勵會員　宮城縣平民勳七等　大町壯上

ひろ前にすゝむ[illegible]し老松は
神に仕へて幾世へぬらむ

愛知縣士族七十三歳嫗　奥田大和上

神路山年こもりして[illegible]前の
松に初日の[illegible]きつるかな

京都府平民　木村忠彥上

こまいぬも苔むしにけり千代を經し
神のいかきの松のしつくに

兵庫縣平民　鷲尾富子上

千早振る神の廣前のどかにて
田鶴もあそべり松のこかけに

美濃の天一坊(一)　(京城の怪物)

今の京城は半朝鮮半日本の体をなして制度未だ完からず暗黒時代に屬するを以て野心を抱藏する者は此の機に乘じ大に爲す所あらんと入り込み來る怪物數多ある中にも美濃の天一坊と綽名せらるゝ詐魔黒鋼といへる者あり少しく佛語に通ずるより伊藤統監に取り入つて百十圓の高給を受け夫れさへ身に餘る光榮なるに慾にかけては飽くことなくあらゆる方面に向つて惡事を行ひつゝあり既に彼れは甘言に乘せられて大に迷惑せし者も尠からず今正さに彼れに籠絡せられつゝある者亦數多ありて側の見る目も氣の毒に堪ゑざるより爰に彼が素性をさらけ出し又彼れが慣用の惡手段を素破拔いて人々の注意を促さん哉

扨も破れ天一坊は岐阜縣美濃國養老郡時村の生れにして昔は孝子を出し龍綱を枉げさせられし歷史に名も著き地に產血を濺ぎたれども蛇は寸にして人を吞むの概ありとか彼れは慶應二年の十二月十四日たぎやーと母の胎內を躍り出でゝより天禀の奸物にて三歳の頃人に抱かれ少しく氣に合はねてとあれば態と泣き出して叔母さんが尻を捻つたなどゝ中傷し夫れが爲めに近隣の者も遂には愛想つかして蜘蛛田の餓鬼には觸らぬこそよけれと見向きもせぬに至り五六歳となれば奸智ます／＼增長し大人も及ばぬほどの邪心を逞うし己れの罪惡を他人に嫁するより觸らぬ神に祟りなしとて彼が溝に轉げて居ても抱き上ぐる者もなかりしが親の慾目は格別にて彼が奸智に富めるだけ怜悧なるより往先きは家名も擧ぐるならんと掌中の珠と愛で慈しみ貧しき中より寺小屋に入學させ教育に怠りなかりしと

柔道と拳法の試合

日本快男兒と支那豪傑の取組

淸國駐屯軍天津憲兵隊付憲兵關屋敏氏は先年渡淸後同地日本尙武館天津支部長三田村信儀氏の門に入り柔道を學び昨年九月初段の免許を得たるが舊臘二十日三田村氏及び憲兵隊長より蒙古流拳法家趙玉有と天津巡警局にて試合をせよと命ぜられ日頃の手腕を試すは此時なりと大に勇立ち鬪場へ赴きたるに當日は淸國の官憲數十名と我が萬歲參觀に來り敵手の趙玉有を見てあれば永く蒙古に住して拳法を指南なし居る稀代の豪傑にて身長六尺有餘に及び筋骨逞ましく方に水滸傳中の人物を目の當り見るが如く威風堂々たるに反して我が關屋氏は趙に比し弱々しく見ゆるに並居る參觀者は勝負如何にと手に汗握りて控居たるにやがて兩勇士鬪場に現はれて相對し趙は兩手を組み中腰になりヂリ／＼と詰寄れば關屋氏は神道六合流の構を取り約十分間双方睨合居たるが機や熟したりけん趙は氣合と諸共左足を少し踏出すや否や右足を飛ばして關屋氏の腮を目蒐て强たか蹴上げたるに氏もさるもの左足をひきて身をかはせば趙はすかさず左拳を以て關屋氏の鳩尾目蒐けて突き來るをパッさ体を開いて趙の左手を押へて放さず彼は振放さんと藻搔く途端に關屋氏は故意と押へし手を放せば趙は得たりかしこしと右足を飛ばして蹴に來る瞬間關屋氏はツと飛込み趙の右手を取るや否や足拂ひにかけ頭顚倒と投倒したる早業に參觀人はドッと斗りに賞讚し喝采の聲は暫時止ざりしと

●僞造貨行使者の就縛　長興警察分署管內江南分派所巡査は犯人搜索のため本月十一日同地附近なる北終面南倉莞島渡場へ出張中同地に於て僞造貨幣を以て籾を買入れんとし賣主が僞造貨なる事を發見し遂約したる云々の風評を聞知し種々取調べの結果同渡場韓舟內に韓人劉洪瑞外四名が僞造五十錢銀貨九百四十二枚を所持せるを取押へ取調中なるが彼等は日本人廣島縣田島郡(廣島縣に此の郡名なし)村字不詳松岡熊吉兄弟の依賴を受けて行使せんとしたる旨申立てたる由にて目下嚴重に犯人搜査中なりと云ふ因みに記者は該僞造五十錢貨を當局官廳にて一見せしが極めて粗造のものにして容易に其の僞造貨なるを觀破し得べきものなり

●榮山浦の出火　去る十四日午後六時榮山浦河岸なる韓人金贊彥方より出火同八時鎭火せしが原因は同家の溫突煙突に破損の個所ありしより夫れより出火せしものなりと燒失家屋は日本家屋六棟韓人家屋十一棟支那人家屋一棟なりと

●同情の淚　去る十八日午後仁川新町に火災ありて燒死小兒ありたることは既報の如くなるが同地に於ける居留民は深く燒死者の父母に同情を寄せ殊に仁川慈善會に於ては吊慰料及び救助料として金十圓を與ふることに決し又同町二丁目の井上嘉吉、田原辰次郎の二氏は町民間を奔走して金二十餘圓の義捐金を募り燒死者の父母に送りたりとは近頃奇篤のことゝいふべし其義捐者は左の如し

一金參圓荒井市藏、同貳圓宛綱戸得哉、堀田伊助、同壹圓宛西島喜代治、西村榮作、淵上米作、楢崎辰之助、川口角藏、小柳智法、新見建次、田原辰次郎、同五十錢宛小林辰三、笠原勝藏、石村好金、松下森作、加古末吉、畑文次郎、根岸、近江屋、村尾太重、執行新八郎、井上嘉吉、田中定四郎、中川元次郎、安田國三、同三十錢宛川村種藏、上野吉原万三郎、萩原傳三郎、金田辰之、上野久吉、中村忠太、藤原伊太郎、大石榮太郎、同二十五錢長谷本キク、同二十錢宛川田中島伊八、松永元助、同十錢宛竹野順一、同五十錢岡村其次郎、同十錢本田作市、同三十錢本村貞信、計二十六圓十五錢也

●洗濯屋のボヤ　當地永樂町二丁目の西洋洗濯屋山本正雄方にては過日來天氣思はしからざる爲め室內に繩を引き廻はしこれに洗濯物をかけ大火鉢を置いて其の乾燥を爲しつゝあり一昨日も例の如くし店員榊幸太郎をしてこれが監視を爲さしめたるに幸太郎が一寸便所に行きて不在中に火鉢の火が上にかけたる洗濯物に燃ゑ移りあはや大事に至らんとせし此時早く家人が氣付きて消し止めたりと

●又も韓人支那人に毆らる　在京城の淸國人が韓人を無視し亂暴なる振舞を爲すことは毎時報道せる處なるが又もや去る十九日韓人崔重錫外三名が紅栅門內の淸國人宅を通行の際重錫が履物を損じまご／＼して居る所へ支那人が鐵火箸を持つて躍り出で其處に何を愚圖々々して居るかと云ひさま重錫を毆打したるより他の三名が仲裁せんとせしに此の時數多の支那人集りて此の四名を取卷き散々に打擲し負傷せしめたりと

●毒のある餅菓子　當地本町一丁目の菓子商仙波德次郎方に於て製造する青色の餅菓子は苦味を帶び怪しき點あるより其筋に於て分析檢査を爲せし處果して有毒なる藥品の和合せられてあることを發見し同店に對し同菓子の發賣を禁止すると共に現存の菓子は遺棄せしめられ又同店より取次販賣を爲せる同町一丁目藥種商山岸祐太郎方に現在せる同菓子五斤も發賣を禁止されたり

●これも歛本主義か　韓人は自己の都合よき事ばかりを考へ如何に他人の妨害になるらうが其處は全く無頓着にて便所の糞尿を往來へ流し込む如きは一般の例ともいふべきことなるが爰に竹洞契冷井洞の閔丙星といへるが隣家の李曉榮の方面に窓を穿ち用捨もなくこれより放尿しまた汚穢物を投棄するより曉榮も幾度か交渉する處ありしも丙星は歛本主義なりと稱し一向に取合はざるより昨日警察署へ說諭方を願ひ出で丙星は呼び出されて說諭せられたり

●赤飯を配る　ろんじよ其處等の粹士通客は御承知の當地新町松榮樓の花菊こと南テルは今より一年半ばかり前に餘義なくせられて此の韓國に流れ來り浮き川竹の流れに身を沈めたりけるが果てしなき苦界に何時までも身を竄すべきにあらずと早くも合點して三更人靜まり鼠這ひ出る頃も眠りもなさず如何にせば此の泥足洗ふべきかなどゝつたいつ思案に暮らし越人呉客誰にもせよ慕ひ來る者なれば親切を盡くし身の振方を相談せしがさて爰に通へる者の大方は浮きたる心の人々ばかりにて床に咲く花の色香を一夜の眺んと爲すのみにて我引き受けんといへる者もなく空しく年月を經たりけるが爰に車屋の司の役人に何某といへる悟り開けし人ありテルの眞志に感じ入りて其の願ひのほども聞き屆け花菊は昨日鑑札を返上して知り合へる人々に赤飯を配り目出度落籍の式を擧たりとなん

●お寺のごた／＼　當地旭町三丁目の護國寺にては住職某と其の弟子の鈴木喜平なるもの感情の衝突よりごた／＼を生し喜平は爰に一策を工風し妻子を國許に送るとて金二十圓を住職より借用し其の金を以て他に新たに南無妙法蓮華經の道場を開設せんと企てたるを早くも護國寺の住職が探知し目下ごたつき居れりとの投書ありたり

●有罪の宣告　舊臘各地に於て時計毛布其の他を竊取せし伊藤米槌は重禁錮十ケ月罰金十圓監視六ケ月に▲永登浦鐵道管理局避病院の看護婦吉田リヲの所有品を竊取せし河合卯吉は重禁錮二ケ月に▲龍山桃山遊廓の工場に於て大工道具其他を竊取せし今井丈助は重禁錮三ケ月監視六ケ月に▲海城に於て墳墓を發掘し高麗燒を竊取せし芦塚與吉佐野秀三郎の兩名は重禁錮一ケ月に當地理事廳裁判所に於て宣告せられたり其の犯罪の顚末は何れも本紙に既報せしを以てこゝに略す

眞崎式うどんそうめんそば製造機械

日本九州佐賀 製麵機械並に 諸機械製造販賣

眞崎鐵工場

開店御披露

和洋雜貨 並に 備前物産

足袋キシヤクリ

御小賣商

京城本町六丁目

中塚支店

京城壽町貳丁目四番戸

御旅館 花屋 電話九一五番

高等下宿 花屋支店 冨士屋

弊舘は本支店共至極閑靜にして眺望尤も宜しく客室の設備も充分注意を拂ひ萬事叮嚀に御取扱可申候也

本店 東京市日本橋區兜町

內地支店及出張所 大阪、京都、橫濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、馬山、鏡城、平壤、大邱、開城、城津、成興

淸國出張所 安東縣

株式會社 第一銀行京城支店

電話番號 營業部 當直用 一一番 同 三三番 國庫部 用度係 分拆所 六一番 六二番 六三番

總支配人 市原盛宏
副支配人 國庫部長 竹山純平
副支配人 調査部長 三島太郎
副支配人 營業部長 市村雄次

東京 熊平製造金庫

竹內製金庫

大阪二重瓶並ニ同特式 消火器

韓國販賣部 京城本町一丁目

熊平商店 電話六二四番

統監府 各官衙御用

荷物荷造及運搬

本店 京城本町三丁目 伊藤組 (電話七百三十二番)

營業部 隣町 伊藤友松 (電話四十一番)

新築落成

龍山元町壹丁目

會席御料理 八景園

電話四六番

薪炭 石炭 たろし

小賣

京城長谷川町一丁目

神野商店

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓

積立及繰越金 七拾貳萬圓

株式會社 十八銀行 京城支店

京城南大門通(電話四二〇)

本店 長崎市築町

支店出張所 韓國 京城、仁川、木浦、龍山、釜山、元山、群山、羅州

日本 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候 (利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

出寫專務

審美舘

寫眞師 高原華泉

寫眞師 奧田星華

明治町二丁目衛戍病院前

木炭着荷

京城南大門通三丁目

英兄弟商會

電話九四八番

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目

支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 第五十八銀行京城支店

(電話五八番)

爲替取組先

畿東山南北臺 內道道道道海 山陽海海 二十七ケ所 十三ケ所 七十五ケ所 二十三ケ所 二ケ所

東北山西韓淸 海道 陸道 陰道 道國 國 二十八ケ所 十ケ所 三十三ケ所 十ケ所 九ケ所 一ケ所

梅毒癩病請合 全治無効返金

百毒滅

京城本町八丁目橋側

特約販賣 卸小賣商 檜田藥房

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭

豆田塊炭

大辻塊炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

三池粉炭

鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應じ可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽、等

三井物産合名會社

京城出張所 (電話二十六番)

仁川出張所 (電話六十三番)

鼈甲細工 並に直し物一切

京城本町七丁目

鼈甲堂

營業科目

活版活字鑄造
石版銅版
コロタイプ
彫刻諸印刷
諸帳簿
製本裝釘

本社 京城明治町三丁目 (電話三二三番)

日韓印刷株式會社

東京出張所 東京市京橋區南鍋町一丁目十番地 (電話新橋三九六二番)

電話開通

二五六番

京城長谷川町

淺野石炭部專屬販賣所

極材木、竹類、灘灰

座敷廻り諸材料等に注意取揃あり

右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

小森材木部

京城旭町一丁目 電話七四四番 本宅四〇五番

手がる料理店案内

京城大平町一丁目 九州樓

京城大平町一丁目 永樂亭本店

京城長谷川町二丁目 永樂亭支店

京城西小門內 南方亭 同 支店

京城大平町 れた瓢亭

京城西小門內 日の出亭

京城大平町二丁目 新あづま

會席御料理 並に 仕出し

京城西小門內

福來亭

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 郡回漕會 電話三九番

京城南大門通 巴商店 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戸行
山東丸 一月二十五日後三時出

●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行
浦汐丸 一月 日後三時出
第一オハヨ號 一月廿二日後三時出
伊勢丸 一月二十六日後一時出
上川丸 一月三十日後三時出

●大連行
高砂丸 一月廿五日後一時出
營口丸 二月四日後一時出
新潟丸 二月九日後一時出

●大連、芝罘、秦皇島行
山東丸 二月八日前九時出

●釜山出帆、元山行
弘前丸 一月二十九日

御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄ノ送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事